



私のニューノーマル

会員 古賀 聡 (67 期)

私が筆をとっているのは2020年7月ですが、未だに、新型コロナウイルス感染症の影響は残り、大人数が集まっての会議や飲み会は敬遠され、日本全体に不安感が残ったままになっています。

そのような中で注目されているのが、コロナ後の「ニューノーマル（新しい日常）」です。この「ニューノーマル」という言葉は多義的で、コロナ前からある言葉なのですが、私個人は、日常生活や経済活動における感染拡大を防止するための様々な取り組みを日常化するという意味であると捉えています。コロナの収束がいつになるのか、そもそも収束するのが不透明な今、個々人が「ニューノーマル」を実践しなければならず、私もその例に漏れません。

まず、会議や打ち合わせの多くをオンラインにしたことで、事務所、クライアント先、裁判所、弁護士会館等への移動時間が圧倒的に減りました（緊急事態宣言中、裁判期日が一斉に取り消されたということも一つの大きな要因ではありました）。そして、これによって、これまで移動時間に費やしていた時間を他の仕事に充てることができることになりました。また、対面での打ち合わせよりもオンラインでの打ち合わせの方が効率的に議事を進行することができ、更には、終わった後の疲労感も少ないように感じます。したがって、業務効率化の観点からはメリットが多いと思っています。

このように私の「ニューノーマル」は良いこと尽くめのはずだったのですが、やはり影の部分もありました。それは体重の増加です。社会人になってからの私は、全くとって良い程運動をしていません。唯一の運動といえば、移動時間の早歩きだけだったのです。これはまずいと思い、最近はランニング等

をはじめ、また、食生活も見直しています。そうしますと、私の「ニューノーマル」から発生した体重増加という事件も、回りまわって、長い目でみると私の健康増進に寄与しているのかもしれませんが。

次に、仕事でもプライベートでも人との付き合い方に変化が出てきました。言うまでもなく、大人数が集まっての会議や飲み会は控えておりますので、例えば、クライアントとの会食、委員会での懇親会、友人との飲み会等は、小規模なものに限り徐々に再開していますが、コロナ前のように戻ることは暫くないのだと思います。

古い考え方なのでしょうが、私は、これらの会食等が好きですし、また、相互の信頼関係を築くために効果的なツールであるとも考えています。今流行りのオンライン飲み会では、システムの仕様上「ある人の発言を他の人が聞く」という構図になってしまう場合が多い等といった問題があるのは勿論のこと、対面での飲み会等と比較して、嗅覚や触覚から得る情報がなく、視覚も区切られた不鮮明な画面になるため得られる情報が限定的となっていることから、相手から受け取ることができる情報が相対的に少ないです。そして、これは私の感覚にすぎませんが、同じ場、コミュニティにいるという共同意識が乏しいように感じます。

そうすると、やはり、オンライン飲み会は、対面での飲み会等に代替するものではなく、「ニューノーマル」の中で、感染拡大防止という社会的責任と対面でのコミュニケーションの双方を両立できる方法を模索していかなければならないと思っています。

コロナ後の「ニューノーマル」とは長い付き合いになりそうです。